

漁業経済学会 短 信

漁業経済学会大会の感想

森 口 孝 司

私はこの第37回の漁業経済学会で初めて学会というものに参加したわけです。現在大学院修士1年ですが、水産経済の研究室には院生が私だけであり、院生同志での情報交換や論議をするということもない日々を送っていますが、その分、先生に相手にしてもらっていますが、やはり同世代の人の水産経済に関する興味や研究していることについて知りたいというのが本当です。学会に参加すれば、特に今回は7人の大学院生が発表していますが、そのことを知るには絶好の機会なので喜んで参加させていただきました。といっても、ただ傍聴していただけて、尚且つ、関心するばかりでしたけれども、特に「現代における沿岸漁業の存続条件」（東水大 佐久間）は私が卒業論文でテーマにしたことに関係していたので、理解し易く、たいへん参考になりました。

一般報告では水産庁、各大学から参加があり、シンポジウムでは、研究所や財団からの参加があり、様々の立場の研究者がこうに報告し合うというのは非常に活気が出て良いことだと思いました。さらに漁業協同組合や一般漁業者の参加があれば良かったとおもいます。それは

ともかく、内容については私自身の勉強不足で、報告を聞いているだけで精一杯でした。中には全然理解できないものもありましたが、それはまた自分の勉強の材料になりますし、また、ここで報告された方々が水産経済のどんなところでそれぞれ興味を持っておられるのかが少しでもわかった気がします。中でも、東水大の水口憲哉氏の報告は、わかりやすく非常に説得力がありましたし、同大の本多剛氏の報告は、こんな研究もあるんだなと思い、関心させられました。

私は卒業論文では「大阪市漁業の存立条件」という題で書きました。出身が大阪市ということもあり、また子供のころは丁度高度経済成長の真っ直中で、大阪万博などで日本が繁わっている時であり、そのころの大阪湾、河川の汚れ、悪臭は経験的に知っていました。現在は当時ほどの汚染ではないと思われるものの、漁業が行われていることに関して非常にイメージし難く、そのため大きな興味が私の中に湧き上がってきました。調査の方法は徹底的な聞き取りを中心に、漁業者達と親しくなり、色々教えてもらい、そこから漁業者の活動や存立を分析していこうと思いました。しかし、漁業者と私との壁は予想以上に厚くまた、調査方法に落度があったのか、結果はほんの僅かを知り得ただけで、とても大阪市の漁業者存立にまで至ることはできませんでした。大阪市漁業はやはり特殊で、漁業者も様々な形で存立している。また湾岸開発などに対応していかなければならないため、外部

目 次

漁業経済学会大会の感想	森口孝司
第37回漁業経済学会大会報告	事務局
在京理事会報告	事務局
事務局からのお知らせ	

に対して非常に敏感になっているなど、調査が困難だったことも言えます。大学院では、卒業論文で学んだことも含め、漁業会社についてもっと研究を進めていきたいと思っています。

漁業というのは資本主義経済社会の中では極めて特殊であり、漁村を見ても、細やかな細胞が集まった有機的な1つの生命体として存在していると見ることができます。例えばそこに他の産業や資本が入り込めば、たちまちにその生命体は影響を受けてしまうだろう。そのようなことを含め漁村社会とそれを取り巻く一般社会との接点、お互いの利害関係、影響し合っている部分について、経済的な視点で分析していけ

たらと思っています。

もう1つ学会に参加して良かったことは、以前までは研究室にある文献は、ただ並べられているだけだったんですが、参加後は、著者ののを見て、あの人が書いたのかと、急に親しみが感じられ、それらを読破することを今後の課題にしようという気になったことです。

最後に、来年の漁業経済学会が三重大学で開かれるということですが、論文を報告することができるか、準備手伝いだけをするのかは今の所わかりませんが、一応の目安として水産経済を研究する一人として日々励んでいきたいと思っています。(三重大学大学院)

第37回漁業経済学会大会報告

学会事務局

5月26日(土)～27日(日)の両日、東京水産大学において、第37回漁業経済学会大会が開催された。

第1日の一般報告では16題の報告があり、第2日のシンポジウムは『日本漁業の国際化—生産構造へのインパクト—』のテーマで実施され、多数の参加者を得て、活発な討論が行われた。

大会プログラムは次の通りである。

●一般報告

1. サクラマス種苗放流の経済効果

水産庁 佐野 雅 昭

2. サケ孵化・放流事業の経済性について

北海道大学 A. マハモド, 増 田 洋

3. ハワイのカツオ・マグロー本釣り漁業における集魚ブイの航効果について

北海道大学大学院 J. T. スプロール

4. 組合員漁民の漁協離れについて

長崎大学 八 木 庸 夫

5. 道南漁村における漁業就業の現状と課題

—北海道亀田郡戸井町を対象として—

北海道大学 板 倉 信 明

6. 現代における沿岸漁業の存続条件

—後継者参入要因の現状と展望—

東京水産大学大学院 佐久間 美 明

7. 羊角湾総合開発と漁業

鹿児島大学 松 田 恵 明

8. 水産物流通の基調と変異

三重大学 浦城晋一, 木南 章

9. 産地価格形成における漁協共販の機能

—京都府漁連を事例にして—

京都大学大学院 婁 小 波

10. 生船「中小」資本経営と仕込契約

京都大学研究員 伊 藤 康 宏

11. インドネシアにおける漁家の社会経済的性格

鹿児島大学 片岡千賀之, M. タウフィック

12. メキシコ漁業にみる海面利用形態

鹿児島大学大学院 亀 田 和 彦

13. 韓国の水産物市場流通における諸問題

東京水産大学大学院 張 瑛 秀

14. 産地の国際化と対応構造—下関と韓国水産物輸入との係わりを中心として—

水産大学校 中 居 裕

15. 2漁業者間のゲームの理論

東京水産大学大学院 本 多 剛

16. 漁村における資源維持の理論

東京水産大学 水 口 憲 哉

●シンポジウム

テーマ『日本漁業の国際化—生産構造へのイン

パクトー』

1. 水産物の需要構造—脱資源型加工産地と流通在庫基地の発展—

埼玉大学 秋 谷 重 男

2. 中小漁業経営の当面する問題とその対応

戸部大学 服 部 昭

3. 漁業労働力の需給構造—船内計算過程からみた労働力需給—

海上労働科学研究所 三 輪 千 年

4. 国際化への政策対応—遠洋漁業に焦点を絞って—

海外漁業協力財団 佐 竹 五 六

5. コメンテーター

東京農業大学 堀 口 健 治

三重大学 浦 城 晋 一

鹿児島大学 片 岡 千 賀 之

6. 総合討論司会

北海道大学 増 田 洋

東京農業大学 増 井 好 男

●総会議事

1990年5月26日午後1～2時開催。議長に酒井亮介氏を選出後、大海原宏代表理事の挨拶。下記の議事について審議した。

1. 1990年度事業報告

1990年度活動報告、会誌発行、短信発行等。

2. 1989年度会計報告、監査報告—資料1参照
会費未納者の督促を行い、会費の納入を確実にする。

3. 1990年度事業計画案

第38回大会開催地（三重大学）予定、シンポジウムテーマ未定、会誌編集方針、短信発行方針など。

4. 1990年度予算案 …… 資料2参照

会費値上げ：一般会員年 7,000円、学生会員 4,000円とする

5. 学会賞選考委員会報告及び学会賞授与

・学会賞 該当者なし

・学会奨励賞

濱 多 英 嗣

- 1) 受賞対象業績：「産地流通に関する研究」
- 2) 論文「活魚店を中心とした流通・経済分

析」『漁業経済研究』29巻3号 1984.12

「円高と水産物流通変化」『漁業経済研究』34巻1.2号 1989.11

その他、主題に関する論文多数

井 元 康 裕

- 1) 受賞対象業績：「漁業構造に関する統計分析」

- 2) 論文「漁業経営体における労働力構成」

『日本漁業の経済分析』1981

「漁家らしい漁家とは—漁業センスを通じてみる“漁家”」『農林統計調査』37巻

6～10号1987

「動態的視点による漁業構造変化に関する考察」『漁業経済研究』33巻4号1989

6. 学会賞選考委員の選出

倉田 亨、堀口健治両氏を改選し、長谷川彰、廣吉勝治、秋谷重男、鈴木旭氏が留任。新たに小野征一郎、八木庸夫の両氏を選出した。

7. 学術会議委員の選出

学術会議の水産学会員候補に長谷川彰氏を選出し、推薦人には「水産学」は鈴木旭氏、「地域農学」は浦城晋一氏を選出した。なお推薦人の予備候補として、大海原宏、倉田亨の両氏が選ばれた。

在京理事会報告

学会事務局

1990年6月22日開催（於：東京水産大学）。

1. ①留学生の増加に対応して英文での会誌投稿を認めるか、②英文レジメの義務付けについて、③年4回発行の希望について等、全国理事会及び総会で出された提案を検討した。①と②については継続審議とし、③については投稿が増えた場合に行うこととした。

2. 一般報告で昨年、今年と大変発表者が増えた、1日で十分な論議を保障して全ての報告を消化することは難しい状況となっている。この為、今後発表数の制限を行うことなしで15名以上の報告希望がある場合は、一般報告の会場を複数用意し、セッションのとり方などを工夫しながらプログラムを組むことも検討することが確認された。

<資料1>

1989年度決算報告(1989.4~1990.3)

1. 収入の部

(円)

科 目	予 算	決 算	増 減
会 費	1,300,000	1,409,000	109,000
カ ン パ	200,000	151,000	-49,000
会 誌 売 上	150,000	362,100	212,100
大 会 収 入	100,000	108,000	8,000
寄 付 金	450,000	450,000	0
雑 収 入	50,000	43,198	-6,802
小 計	2,250,000	2,523,298	273,298
前記繰越金	482,919	482,919	0
合 計	2,732,919	3,006,217	273,298

2. 支出の部

(円)

科 目	予 算	決 算	増 減
会誌印刷費	1,600,000	1,821,910	221,910
通信発送費	80,000	152,258	72,258
事務局費	50,000	12,433	-37,567
会 議 費	80,000	76,850	-3,150
大会経費	250,000	255,738	5,738
負 担 金	42,000	83,210	41,210
雑 費	10,000	4,363	-5,637
小 計	2,112,000	2,406,762	294,762
繰 越 金	620,919	599,455	-21,464
合 計	2,732,919	3,006,217	273,298

3. 財産目録(一般会計)

郵 便 貯 金	9,176
銀 行 預 金	416,783
現 金	173,496
合 計	599,455

4. 財産目録(特別会計)

郵 便 貯 金	750,000
計	750,000

<資料2>

1990年度予算(1990.4~1991.3)

1. 収入の部

(円)

科 目	予 算
会 費	1,500,000
カ ン パ	200,000
会 誌 売 上	150,000
大 会 収 入	120,000
寄 付 金	450,000
雑 収 入	200,000
小 計	2,620,000
前期繰越金	599,455
合 計	3,219,455

2. 支出の部

(円)

科 目	予 算
会 誌 印 刷 費	1,970,000
通 信 発 送 費	200,000
事 務 局 費	50,000
会 議 費	100,000
大 会 経 費	250,000
負 担 金	42,000
雑 費	10,000
小 計	2,622,000
繰 越 金	597,455
合 計	3,219,455

3. 次期(38回大会)シンポジウムのテーマについて検討した。全国理事会等で出された意見を要約すると、①これまで2年間継続でやってきた国際化のテーマと何らかの係わりを無視することはできない、②遊漁、海レクなど新しい問題の側面の検討、③転換期にふさわしい漁業経済研究の再検討を制度問題を中心にやる方向はどうか、などであった。具体的対象としては中小漁業問題、漁家問題などの検討にウェイトを置いてはとの意見も出た。在京理事会として、これらについて再度検討した。“資源管理型漁業”の制度的諸問題についてもアプローチしてみても、との提案もあった。しかし、具体的な成案を得るに至らず、シンポ担当となった廣吉、多屋の両理事で詰めて、再度次回在京理事会(9月)で検討することとなった。

事務局からのお知らせ

●会費値上げについて

再三通知致しましたように、90年4月1日をもって会費が値上げとなりましたのでよろしく。

一般会費 年 7,000円

学生会費 年 4,000円(学生、院生、研究生など)

●次期シンポ・テーマについて

会員の皆さんの積極的なご意見、ご要望お待ちしております。9月28日に次回在京理事会を予定しておりますので、それまでに事務局までお寄せ下さい。

●短信への投稿依頼

短信への投稿を募集します。400字×5枚以内で地域と研究動向、意見・要望など何でも結構です。

次回発行予定は12月、〆切は11月10日です。会員各氏の新刊紹介のPR文も掲載致しますのでお願いします。

●新入会員紹介

下記の方々から入会申込みがありましたのでお知らせします。(敬省略)

吉原正記(愛知県立岡崎北高等学校)

レイナルド・エル・タン(筑波大院生)

樋口貞三(筑波大)

花本栄二(神奈川水試相模湾支所)

●寄贈文献の紹介

学会宛に次の文献が寄贈されましたので、報告をしてお礼にかえたいとおもいます。

<文献名>

<寄贈者>

「漁船海難遺族生活実 漁船海難遺児育英会
態調査報告」

「南西水研究報告第22, 南西水研
23号」

「要覧・南西水産研究 南西水研
所」

「日韓合同学術調査報 益田庄三
告・1～6輯」

「朝鮮学術通信24・25」在日本朝鮮人科学技術
協会

「The Second Asian The Asian Fisheris
Fisheries Forum」 Society

学会短信 No.61

1990.8

事務局

〒108 東京都港区港南4-5-7

東京水産大学

電 話 03(471)1251